日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部

発行人：阿波谷敏英,川上和徳
事務局　〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 川上和徳
Tel. 087-876-1185　Fax. 087-876-3795
E-mail　jpicardk@yahoo.co.jp

★　第 25 回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会、第 32 回四国地域医学研究会　合同学術集会のご案内（第二報）

大会長：　的場　俊（高知県立あき総合病院）

『第 25 回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会・第 32 回四国地域医学研究会　合同学術集会』を、高知県安芸市にて下記の日程で開催いたします。

- 日程　　2025 年 11 月 15 日（土）、11 月 16 日（日）
- 会場　　高知県安芸市　高知県立あき総合病院やまのホール　（ハイブリッド開催）
- プログラム内容

【第 1 日目】2025 年 11 月 15 日（土）

13:00～　四国地域医学研究会総会
13:30～　受付開始
14:00～　開会式
14:10～　特別講演　理事長　草場鉄周先生
15:00～　シンポジウム「ACP と看取り」
17:55～　四国ブロック支部総会
18:30～　懇親会　会場：ホテル TAMAI

【第 2 日目】2025 年 11 月 16 日（日）

8:30～　ポートフォリオ発表会
9:30～　一般演題
12:30～　閉会式
キャリア・カフェ・ミニ
病院見学（事前予約制）

- 単位（申請予定）
  - 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・家庭医療専門医更新のための生涯学習単位
  - 日本プライマリ・ケア連合学会認定薬剤師認定単位
  - 新・家庭医療専門医制度における off the job トレーニング単位
    ※　総合診療専門医更新のための単位は、各自での申請となります
- 参加費
  - 大会参加費：無料
  - 懇親会参加費：7,000 円（学生 1,000 円）

- 一般演題　募集要項　　※専門研修の「学会発表」に該当します。専攻医の積極的な応募をお待ちしています。

(1) 内容　　プライマリ・ケアに関すること。

(2) 発表時間　　発表 6 分、質疑応答 3 分の予定（状況により調整する場合があります）

(3) 演題の採否については、実行委員会で検討の上、決定いたします。

(4) 演題申込

演題名、所属、演者、共同演者、抄録内容（600 字程度）を作成の上、申込フォームに入力してください。先に演題申込をして、後日、抄録を入力いただくこともできます。（登録内容に変更が生じた場合は、事務局までご連絡ください）

【演題申込締切り】2025 年 9 月 30 日　　【演題抄録締切り】2025 年 10 月 15 日

(5) 発表形式

現地/オンラインどちらからも可能です。一般演題は全てパソコンによるプレゼンテーションとします。現地で発表される方は、事務局が準備したパソコン（Windows10）を用いて発表していただきます。オンラインで発表される方は、ご自分のパソコンで画面を共有するか、事務局が画面共有およびスライド操作をして発表していただきます。

(6) 発表データ

Microsoft PowerPoint2003 以上で作成したデータに限り使用可能です。スライド縦横比は 16：9 か 4：3 のいずれかとしてください。レイアウトの崩れ防止のため、使用するフォントは游明朝、游ゴシック、Arial を推奨します。

データは事前にデータ転送サービスにて提出いただきます。演題応募していただいた方に、後日改めて転送方法をご連絡いたします。

【発表スライド締切り】2025 年 11 月 7 日

(7) 応募資格

筆頭演者または共同演者が、日本プライマリ・ケア連合学会または地域医療振興協会の会員であること。

(8) 論文集への寄稿

日本プライマリ・ケア連合学会四国支部論文集への投稿をお願いしております。大会終了後にご連絡させていただきます。

- ポートフォリオ発表会　演題募集要項

(1) 内容

日本プライマリ・ケア連合学会の新・家庭医療専門研修プログラムにおけるポートフォリオ領域から 1 つ選んで下さい。　領域（2024 年 6 月改訂）https://www.primary-care.or.jp//nintei_fp/case_sk.php

(2) 発表時間　　発表 8 分、質疑応答 10 分の予定（状況により調整する場合があります）

(3) 演題の採否については、実行委員会で検討の上、決定いたします。

(4) 演題申込

タイトル（演題名）、共同演者、領域名を申込フォームに入力してください。（登録内容に変更が生じた場合は、事務局までご連絡ください）

【演題申込締切り】2025 年 10 月 15 日　【発表スライド締切り】2025 年 11 月 7 日

(5) 発表形跡　　一般演題と同じ

(6) 発表データ　一般演題と同じ

(7) 応募資格　　家庭医療専門研修プログラム、総合診療専門研修プログラムの専攻医であること。

- 懇親会

日時　2025年11月15日（土）18:30～

場所　ホテルTAMAI 6Fホール　（安芸市矢ノ丸１丁目６）

　　県立あき総合病院から送迎バスがあります（往路のみ）

参加費　7,000円（学生1,000円）

申込　申込フォームに入力してください

- 託児所

大会の開催期間中、院内託児所を利用できます。ご希望の方は、申込フォームに入力してください。後日送付する連絡書にご記入いただき、当日、受付に料金とともにご提出ください。

料金　お子様1名につき1,000円

- 病院見学

11月16日（日）終了後に、院内をご案内します（30分程度）。ご希望の方は、申込フォームに入力してください。

- 宿泊のご案内

近隣のホテルとして、以下の2施設を推奨します。

ホテルTAMAI	ホテル海辺の果樹園
高知県安芸市矢ノ丸1-6（徒歩約15 分、車5分）	香南市夜須町手結山506-１（車30分）
電話　0887-35-2111	電話　0887-55-4111

※　大会事務局で、以下の部屋を仮押さえしています。ご希望の方は、ホテルに電話をしていただき、「日本プライマリ・ケア連合学会」とお伝えいただいたうえでご予約ください（先着順）

ホテルTAMAI	35室（8,470 円又は9,570 円）	11月7日（金）まで
ホテル海辺の果樹園	30室（15,000 円）	10月15日（水）まで

※　送迎バスを運行します

11月15日（土）　終了後　県立あき総合病院　→　ホテルTAMAI（懇親会会場）

　　懇親会終了後　ホテルTAMAI　→　ホテル海辺の果樹園

11月16日（日）　朝　チェックアウト後　各ホテル　→　県立あき総合病院

□　県立あき総合病院から高知市内へは、高知東部自動車道を利用すれば約45 分（約40 km）です。高知市内のホテルを利用される場合は、各自でご予約下さい。

- 申込フォーム

大会参加、一般演題発表、ポートフォリオ発表、懇親会参加、送迎バス利用、託児所利用、病院見学、すべての申込みは、こちらをクリック、もしくは右のQRコードで表示されるフォームから入力してください。

- 問合せ先（大会事務局）

高知県立あき総合病院 経営事業課 久保、岡村

メール　620103@ken.pref.kochi.lg.jp　　電話0887-34-3111

〒784-0027 高知県安芸市宝永町3－33

★　日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック支部 あき総合病院サイトビジット

専門研修支援委員　植本真由

2025 年 8 月 15 日、日本プライマリ・ケア連合学会専門研修支援委員の原穂高先生（愛媛生協病院）と植本真由（高松平和病院）2 名で、高知県安芸市にある高知県立あき総合病院のサイトビジットを行いました。目的は四国ブロックで研修を行っている専攻医の研修実態の把握や専攻医・指導医の困りごとの把握、四国ブロック内での家庭医療・総合診療研修に携わる者同士での交流です。

11 時から総合診療内科部長の的場先生に院内案内をしていただき、指導医の先生方、専攻医の先生と院内レストランで昼食、午後からは、専攻医の診療振り返りと医療プロフェッショナリズム（患者中心のケア・セルフケア）についてのレクチャーを行いました。14 時半～病棟カンファレンスを見学し、15 時に終了しました。合間で、指導医や専攻医の困りごとを聞く時間をいただきました。

あき総合病院は 270 床（一般病床 175 床、結核 5 床、精神 90 床）と高知東部の医療を担う総合病院です。現在、総合診療専門研修をおこなっている専攻医は 4 名（3 名が新家庭医療も連動研修中）で、うち 1 名があき総合病院で研修中です。朝一番は的場先生が入れたコーヒーが香る医局で、前日に入院した十数名の患者さんの振り返りカンファレンスから始まります。

外来がある日は専攻医は数名の定期患者をみながら、当日の初診患者の対応も行っています。様々な問題が持ち込まれ、内科的にも家庭医療的にも学ぶことの多い外来であることが伺えました。外来で困った際にすぐに連絡でき、受け止めてくれる上級医がおり、また、「これに困っている」と伝えることができる関係性を築けていることが素晴らしいなと感じました。

日々の振り返りやポートフォリオ作成指導、なんでも相談できる指導医がいたりと、役割分担しながら指導体制を構築されているのが印象的でした。専攻医自身が忙しい中でもきちんと振り返りを行い、よりよい診療に向けて学習・研鑽されていると感じました。

お忙しいところご対応いただいたあき総合病院の先生方、本当にありがとうございました。

★　第１回うどんそばカンファレンスのご報告

所属：　香川大学医学部附属病院　総合診療科専攻医　谷川莉理花

2025 年 7 月 5 日（土）から 7 月 6 日（日）にかけて、第一回うどんそばカンファレンスが開催されました。島根県と香川県の総合診療に関わる医師や、総合診療に興味のある学生、初期研修医が参加し、香川県から 18 名、島根県から 18 名、計 36 名の参加者が集まりました。その後の大交流会やディスカッションでは、「うど

んそば戦争」と称した白熱した議論が繰り広げられ、非常に活発な意見交換が行われました。

隠岐島は今回初めて訪れたのですが、高松から島根県の七類港まで車で約 3 時間、七類港からチャーター船で約 2 時間の荒波を乗り越え、ようやく到着しました島根県からの参加者と一緒にこの大変な航海を共にしたことで、連帯感が生まれたように感じました。そのおかげもあってか、香川と島根の参加者がすぐに打ち解け合い、交流がよりスムーズに進んだように思います。

隠岐島前病院に到着した後、昼食をいただき、すぐにエコーセッションが始まりました。腹部（益田赤十字病院　岡本栄祐先生）、心臓（香川大学医学部附属病院　市来智子教授）、膝関節や正中神経など運動器（島根大学総合診療医センター　白石吉彦先生）のエコーや、エコー下の穿刺練習をグループ内で交代しながら行いました。時間は限られていましたが、実際にエコーを使ってそれぞれの部位を確認できる貴重な体験となり、大変有意義でした。

その後、宿泊施設の宴会会場で交流会が始まりました。美味しい海鮮料理をいただきながら、同じテーブルの島根の先生とお話をしました。続いて、氏原英敏先生（島根県立中央病院　初期研修医）が司会を務め、参加者の自己紹介が始まりました。予想に反して、自己紹介はただの自己紹介ではなく、「学生」「研修医」「専攻医」「エキシビション」「大将」といった各部門で、自己アピール合戦が繰り広げられました。出場者一人ひとりの個性が際立っており、大交流会は非常に盛り上がりました。

2 日目には、「医学生と研修医が語る島根と香川の総合診療」というセッションが開催されました。香川・島根両県からそれぞれ 2 名ずつの医学生と研修医が壇上に上がり、各々の意見を交換しました。前半の医学生のセッションでは、香川と島根における医学教育の特徴や違いについての議論が行われました。特に、教養科目のあり方や医学教育を始める時期についての意見が多く出ました。また、「授業の要点が分かりにくい」「専門的すぎる」などの意見もあり、医学教育の課題とその解決策について活発に話し合われました。将来私も教員として教える立場になると思うので、非常に参考になる内容でした。続いて、研修医のセッションでは、総合診療医を専攻する際の不安についてディスカッションが行われました。香川では新専攻医が少なく、キャリアパスが不透明な点

が課題として挙げられました。対して島根では、キャリアモデルが多いため不安は少ないものの、それぞれの病院ごとにプログラムが分かれており、プログラム選びが大変などの声がありました。これらの不安に対し、先生方が丁寧に助言をくださり、学生や研修医の総合診療に対する興味が増したり、不安が和らいだりしたのではないかと思います。

お昼には、香川県から市来先生が持参してくださった藤井製麺のうどんを 50 人分を、隠岐島前の皆さんがゆでて準備してくださり、サザエや天ぷらと一緒にいただきました。とても美味しく、心温まるひとときでした。

最後に、隠岐の病院や医療施設を見学した後、隠岐の観光名所である摩天崖へ行きました。自然が作り出した壮大な崖が海にそびえ立ち、その圧巻の景色に感動しました。

2 日間にわたり、島根の学生や先生方と深い交流ができ、さらに隠岐の自然も堪能できた非常に充実した勉強会となりました。今回の企画やたくさんの心温まるおもてなしに感謝申し上げます。来年は香川で第 2 回が開催される予定ですので、さらに有意義な勉強会となるよう、準備を進めていきたいと思います。

★　総合診療セミナー　「総合診療における臨床研究」を開催しました

所属：　高知大学医学部家庭医療学講座　岩下演久

高知家総合診療専門研修プログラムの主催で「総合診療における臨床研究」をテーマに総合診療セミナーを開催しました。

講師として高知大学医学部臨床疫学講座教授の佐田憲映先生においでいただきました。佐田先生は腎臓、内分泌、膠原病内科の臨床医として活躍されながら、全国に 5 つしかない研究をテーマとした総合診療専門医のためのアドバンスト研修プログラム「高知県臨床研究フェローシップ」で指導を行っておられます。

高知家総合診療専門研修プログラムの専攻医、指導医はもちろん、総合診療に興味をもってくれている学生にも参加していただき、準備にあたった者として大変ありがたく感じました。

講演は、ご自身の紹介に続いて、臨床において疑問に感じる事が臨床研究の第一歩となること、疑問に感じたことを解決する能力を養うことが、専攻医研修を終了した後に、自身を成長させる力になる、というお話をいただきました。その後実際の臨床研究の進め方についてお話をいただいた後に、「オンライン診療は総合診療分野で有用か？」というクリニカルクエスチョンに対しての PECO をグループ毎に作成してみました。グループ毎に様々なアプローチがあり、それぞれに対して佐田先生からコメントをいただくことで学習を深めることが出来ました。

今回のセミナーを通して、なかなか時間がなかったりアドバイスをもらえる人がいなかったりと、取り組むのにハードルが高いと感じる臨床研究への取り組み方の基本を学ぶことが出来ました。これからは、通常診療の中で臨床研究につながるようなふとした疑問点を探すこと、そしてそれを臨床研究につなげていけるようにさらに勉強を進めていきたいと思います。

受講後のアンケート(回答者 11 人)では、「セミナーのわかりやすさはどうでしたか」という質問には、大変わかりやすかった 90.9%、わかりやすかった 9.1%、「セミナーの内容は期待したものと一致していましたか？」という質問には、期待以上であった 45.5%、ほぼ期待通りだった 54.5%、と参加者の皆さんの持つ期待に応えることが出来たのではないかと思える結果となりました。自由意見でも「臨床研究を身近に感じた。」、「臨床研究について、ベテランになってからやるものという意識から、専攻医の段階でどんどん疑問を持ってやっていくものという意識に変わりました。」といった臨床研究に対する意識の変化を感じさせる意見や、「日々の臨床の疑問から研究に結実させるには、院内外での研究のメンター、仲間が必要と実感した。県内での研究の

報告会などあれば参加したい。」といった臨床研究をどのように目に見える形にしていくのがよいかを意識した意見があるなど、皆さんにとって有意義なセミナーであったことが伺えました。
佐田先生に心より感謝申し上げます。

「有明月の月下美人」　渡川鷹之

定価：1,210 円（本体 1,100 円）判型：四六上 ページ数：116
発刊日：2025/07/15　　出版社：文芸社
ISBN：978-4-286-26640-4

　支部会員である石井隆之先生（高知医療センター総合診療科）が渡川鷹之のペンネームでミステリー小説を上梓されました。終末期医療のあり方にも一石を投じる内容で、高知新聞でも紹介されました。
　今回、四国ブロック支部よりニュースレターへのご寄稿をお願いしたところ、ご快諾いただきました。
　ぜひ、お手に取っていただければと思います。

★　作品紹介　「有明月の月下美人」

渡川鷹之（ペンネーム）

月下美人の神々しい花は、子供時代に実家で何回か見たことがありました。当時はたくさん咲かせると高知新聞に写真付きで紹介されていましたので、ひょっとしたら取材に来てくれないかなと、少し期待していたことを今も覚えています。

拙著は救急医毛利慎吾と介護職員橘百合のミステリー小説です。医療現場の話はもちろん出てきますが、私の大好きな高知の風景も随所に出てきますので、ぜひお楽しみください。

作品を書きたいと思ったきっかけは、本編にも出てきますが、「ルーカス３（心臓マッサージ機）」による衝撃的な医療現場を目撃したことです。まるで餅でもつくかのように、無機質な機械音とともに老女の脆弱な胸郭を圧迫し続けます。

「１００歳近い老女に、なんてムゴイことを……」

「大往生とはほど遠い……」そう感じました。

末期癌についてはガイドラインに緩和治療を奨励する記載がきちんとありますが、認知症など末期がん以外の超高齢者の終末期（老衰？）については、やんわりとしか記載がありません。

今日の医療現場では、超高齢者の終末期医療について、いろいろ意見はあっても、空気の読み過ぎなのか誰も何も言えない状態のように思えます。特に心肺停止時の蘇生術については、必要性に疑問を抱きながら、流れ作業を淡々とこなすだけ。悲しいことに、訴えられないようにすることが大前提です。多忙なこともあり、医療者の思考回路はほぼ停止してしまっています。高齢者の尊厳なんて考えている余裕はありません。それどころか救急車で運ばれてくる高齢者を厄介者扱いする医師さえいます。

「いったいどうすれば安らかな最期を迎えられるのか？」

国が進める ACP（人生会議）を絡めた、人生の最後をどうありたいかを考える動きはゆっくりですが確実に普及しつつあります。それに伴い、人生の終末期の在り方について、いろいろな論文や書籍が発表されています。しかし、一般の方が読むとなるとややハードルが高いように感じます。

「せっかく頑張って論文や書籍にしても、なかなか読んでくれないんだろうなぁ。だったら小説にしてみよう！それもみんなが好きなミステリー風で」と思ったわけです。かなりきわどい表現や、読者によっては非常に不快に感じる部分もありますので、大炎上するかもしれないと不安でしたが、そうなったら今の病院を辞める覚悟でした（幸いこの原稿を書いている時点では馘にはなっていません）。

厳しい評価を心配していたのですが、「面白くて勉強になる、もう 10 回以上読んだよ」、「事前指示書を書きたいのだけど、どうしたらいいの？」など、ご近所のシニアマダムさん達から、たくさんの温かいお言葉を頂きました。なかには友達や家族に読ませるといって数冊買っていかれる方もいました。うれしくて涙が出ます。

特別養護老人ホームの実情については、現場で働く看護師さんや介護士さんの話を参考にさせて頂きました。快く取材に協力頂いた皆様には感謝の言葉しかありません。医療職、介護職はもちろんですが、なるだけ多くの一般の方に読んで頂きたい。この作品が終末医療を考えるきっかけになってくれたら、こんな嬉しいことはありません。

（高知医療センター総合診療科　石井隆之）

四国ブロック支部公式ブログもご覧ください♪

2025 年 4 月、ブロック支部の公式ブログを開設しました。イベントのご案内など即時性の高い情報を、ホームページやニュースレターよりも、こまめに発信して参ります。右の QR コードからアクセスください。ブックマークして時々覗いていただけると嬉しいです。SNS 等での拡散も大歓迎です。（事務局）